

まち

No.16 2021年春号

発行日：令和3年3月23日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎ 03-3259-0531 (学科事務局)
発行責任者：岡田智秀(教室主任)
編集担当：小木曾 裕、西山孝樹
制作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言	1
特集 まちの見方・楽しみ方【関西編】	2
令和2年度 卒業生の就職活動状況	9
令和2年度 まちづくり工学科研究業績	10
令和2年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー	13
令和2年度 まちづくり工学科各賞受賞者	14
教室主任再任挨拶	15
教職員・学生の活躍	16

巻頭言

一人前のエンジニアになるために

教授 阿部貴弘



幸せなことに、学生時代からいままで、まちづくりに携わる専門家の方々と一緒に“まち”を見て歩く数多くの機会に恵まれた。学識者や実務家、公務員、学芸員、郷土史家、地元をよく知る古老など、その立場や専門分野は多岐にわたる。学生時代に所属した研究室の先生方（そのうちの一人が天野光一先生）に連れられた見学会やゼミ旅行に始まり、諸学会が主催するイベント、実務の現場での現地調査や先進地視察、学生を連れた各地のまち歩き、地元の方々や子どもたちとのまち探索、一般の方々をガイドするウォーキングツアーなど、その積み重ねは数百回に及ぶ。いずれも、机に向かっているだけでは得られない知識や技術を学ぶことのできる勉強の場であり、その一つひとつの経験が、いまの私にとってまさに宝物である。

なかでも印象的だったのが、各分野のいわゆる重鎮と呼ばれる方々とのまち歩きである。重鎮の方々はほぼ皆さん、何やらブツブツと呟きながらまちを歩く。はじめは、「独り言か？ 年取っているからなあ……大丈夫か？」などと思っていたが、その呟きに耳を傾けてみると、実はまちを歩きながら気づいたことをいちいち呟いていたのである。ある公園で、「この階段は歩きやすいなあ」と呟きながら、蹴上と踏面のバランスを確かめてみたかと思えば、隣接する道路で、「ここなら車道を少しいじめて歩道を広げられるね」と道路空間の再配分を示唆してみたり。空き部屋の多いマンションを見て「建築家に騙されちゃったね……このデザインは使いにくいんだよ」と一刀両断したうえで、「おまけに前の道は旧河川の暗渠だろうから湿気もひどそうだ」とまちの履歴を

瞬時に読み切ってしまった。大河川の河口付近で「ここに斜張橋はバランス悪いなあ」と橋梁形式に注文を付けたかと思えば、海岸線の松林を眺めながら「江戸時代から頑張って植えてきたんだねえ」と景観の成り立ちを解説してみたり……呟きの内容は、実に多様かつ多面的であり、いわばまちづくりの教科書が語っているようなものである。その呟きを一つたりとも取りこぼすまいと、傍らで必死にメモを取ったものである。

大学院生の頃、ある重鎮に、「阿部君、自分の視点でまちを見ることができるようになったら一人前だよ」と教えた。当時は、「そんなものかなあ……」程度に思っていたが、いまはその言葉の意味と重みがわかる気がする。本誌の特集には、まさに各教員のまちを見る視点が詰まっている。高度な専門知識や長年の経験に裏打ちされた、珠玉の視点の数々である。まちの見方の宝石箱といったほうが、受けが良いだろうか。

COVID-19の影響で、皆でまちを見て歩く機会はすっかり減ってしまった。しかし必ずやまた、その機会は戻ってくるはずである。その時に備えて、そして一人前のエンジニアになるために、ぜひ本誌の特集から多くを学び取ってほしい。

余談になるが、最近、重鎮に倣って、意識して学生のそばで呟いている。しかし、その意図を理解してもらえていないのか、あるいは呟きの内容に重みがないのか、学生には「さっきからなにブツブツ言っているんですか？」などと訝しがられている。まだまだ、鍛錬が足りないであろう。私も、本誌の特集でしっかり勉強したい。

了



関西編

まちの見方・楽しみ方

三重県尾鷲市

世界遺産「熊野古道」から学ぶ

私の故郷・三重県を取り上げる。三重といえば伊勢神宮を想像する人が多いが、その参詣道である「熊野古道」も有名だ。写真のような石畳が貫く美しい山林は、一見すると自然美によるものと思うかもしれないが、とくに三重県尾鷲市の伊勢路は7割が人工林であり、人の手で作られた空間である。尾鷲は日本の林業のはじまりの地ともいわれ、ヒノキ材の生産で有名だが、海外からの安価な輸入材の流通によって木材価格が低迷し、手入れが行き届かず放置される山林が増えている。こうした世界遺産の維持保全には、人々の生業から考えていく必要があり、観光名所から学ぶべきものは多い。

滋賀県近江八幡市

水郷と近代建築を訪ねて

近江八幡は、豊臣秀次によってつくられたまちである。八幡堀周辺には近江商人によって栄えたまちなみが存在し、重要伝統的建造物保存地区に指定されている。堀を船で散策しながら、堀と周辺のまちなみを眺めるのも楽しい。

近江八幡は景観法に基づく景観計画の第1号であることや、重要文化的景観の第1号であることなども知って散策したいものである。さらに旧市内に足をのぼして、ウィリアム・メレル・ヴォーリズの近代建築を楽しむのも良いだろう。



(左)世界遺産でも知られる「熊野古道」は熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社)へと通じる参詣道の総称で、奈良県、和歌山県、大阪府にまで跨る
(右) 落合助教が「熊野古道」をテーマに、2014年に三重県立美術館で展示したインスタレーション作品。尾鷲の間伐された山林の風景をモチーフにしている



八幡堀めぐりの屋形船からの街並み



落合正行 助教(岡田・落合研究室)
専門 | 建築計画 / 建築設計 / 空間デザイン



天野光一 教授(天野・西山研究室)
専門 | 景観・デザイン論 / 観光計画

長浜という地の魅力

琵琶湖の東岸に、長浜というところがある。豊臣秀吉が築いた城下町で、秀吉庇護した町衆の意識が強い土地柄である。今風にいうなら、“住民主体のまちづくり”の気風に富むといつてよい。一時期、人通りが途絶えるくらいにまで疲弊していたが、その秘めた可能性を花開かせ、今では京都・大阪、名古屋方面からの来訪

者でにぎわう。

長浜の魅力は、五感だけで感じることは難しい。そこに関心・興味、まちづくりの知見・意識等が関わる。まちなかに、某大学の「風雅のまちづくり長浜研究所」という町家があるが、風雅

という言葉も長浜の魅力の一面を言い表す。それは、“土地の感覚”に属する。

高々とした先人らの願いや想いを受け継ぎ、そこに自分たちの想いを溶かしこみ、次の世代にしっかりと引き継いでいく。そこに長浜人としての誇りと矜持、まちづくりの規範を見定める。

長浜の活況は、まちなかの「黒壁」と呼ばれている建物の保存と利用に始まる。祭りの曳山の見送り幕に、ベルシャ産の豪華な織物を使っている地である。海外にも目を向け、視察を行い、ガラス細工に行き着く。単にガラス製品を輸入または購入し、それを販売するだけの発想を突き抜けていた。そこに代々、長浜の地に受け継がれる「文化」というものに対する感覚が底流する。ガラス細工の作家を雇い入れての芸術文化の創造、そ



まちなかの水辺(筆者撮影2016年11月4日)



黒壁(左手。筆者撮影2016年11月4日)



長浜のまちなか(筆者撮影2016年11月4日)

して作家さんの指導を得ての体験が組み込まれる。

その想いは、黒壁に共鳴します。かの北大路魯山人が逗留した地でもあり、かねて「目利き」の才をもつ。その才を生かし、滋賀県内の見事な商材を選びだし、紹介・販売する。フィギュアミュージアム(龍遊館)、長浜工芸研究会など、単に物産や商品売るのではなく、「生活文化創造」なり「暮らしの文化」を提唱しようとする気風が、まちなかに表出する。まち全体として独自の「暮らしスタイル」を基軸に「ライフスタイルのブランド化によるまちづくり」を目指す。



高村義晴 教授(高村研究室)
専門 | 地域創生／都市再生



三重県



滋賀県



奈良県

奈良県明日香村

悠久の歴史を感じる「キトラ古墳」と壺阪山駅からの道

1983(昭和58)年にキトラ古墳が発見されて間もなく古墳を見に行ったが、草ぼうぼうの古墳らしき小山の前に小さな立て札が立っただけであった。近頃、古墳内部の修復壁画が一般公開されるというので、久しぶりに近鉄壺阪山駅から田んぼ道を歩いていくと、途中にカカシが大勢で座っていたり、刈り取られた稲が稲架掛けになっていたりと、のどかな田園風景があった。草ぼうぼうだった古墳は、立派な公園の中に復元されており、壁画は「キトラ古墳壁画体験館 四神の館」という立派な施設に保管されていたが、近隣の風景からも悠久の歴史を全身で感じる事ができた。



青木和夫 特任教授(人間工学研究室)
専門 | 人間工学／健康工学



キトラ古墳とその模型の前で

神社仏閣だけでなく 古来の社会基盤訪問でも 楽しいまち

京都中心部の東方には、高野川と鴨川が今出川橋梁直上流においてY字型で合流し、鴨川として流下している。また、南方には宇治川が、西方には桂川が流下している。そして、京都中心部にも多数の小河川が散在している。神社仏閣の都ではあるが、その一方、水の都でもある。マニュアル通りの京都観光も面白いが、水の流れを目的として歩くのも面白い。

写真1は、上賀茂神社付近の水路である。古くは、生活にも使われていたと考えられ

るが、今となつては観光客のまち歩きに花を添える存在と考えられる。水理学的には、射流と常流とが混在し、河床に凹凸がなくとも流水音を立て波立った流れとなる（詳しいことは、3年生設置の水理学にて！）。この街路を歩くと、水の流れが目にも耳にも大変心地いい。このような流れは、河床勾配が1/100～1/200程度で形成され、結果的に絶妙な設計である。

写真2は、渡月橋の上流に存在する取水堰「葛野大堰」（コンクリート固定堰）である。嵐山を訪れ渡月橋を渡る人々にとっては、「静」の山々の風景の中に落水する「動」の風景と落水音が入り、目も耳も楽しませてくれる。しかしながら、河川工学的には、堰の直下流側では洪水時、高速流が形成されるため、堰直下流側の橋脚の設置はナンセンスである。景観を楽しむ場所であろうが、典型的な



写真1 上賀茂神社近隣の水路

問題設計であり、渡月橋を渡るたびに「なぜ？」と、土木屋として考えさせられる場所である。

写真3は、南禅寺の水路閣である。観光客はその外観を楽しむが、どうしても水の流れが気になる私はその水路が見たくて、立ち入り禁止付近まで崖を登ってしまふ。水路閣は、趣深い歴史遺産の一方、琵琶湖疏水として今も利用される社会基盤である。れっきとした「生きている」証を魅せてくれる。

京都は歴史深い。神社仏閣巡りは心を浄化し感動ができるが、土木屋としては、古来の人々の知恵の賜物である社会基盤のすごさも感動できる、素敵な「まち」である。



後藤 浩 教授
(後藤研究室(沿岸域防災研究室))
専門 | 河川工学／海岸工学



写真3 南禅寺水路閣



写真2 渡月橋上流の葛野大堰

鴨川の納涼床

鴨川の納涼床のはじまりは、豊臣秀吉が京都の都市改造に取り組んだ16世紀末までさかのぼるといわれる。関東では、徳川家康がようやく江戸建設に着手しはじめた頃のことである。現代風にいえば、この納涼床は、400年以上続くサステナブルな都市文化といえよう。しかし、こうした都市文化を継承するのはそう容易ではない。まちづくりの技術でいえば、河川占用にはじまり、景観規制や眺望保全など、さまざまな法制度を駆使してこの文化を維持している。こうした文化を支えるのも、まちづくりの技術者が担う大事な役割のひとつである。



多くの市民や観光客で賑わう京都の夏の風物詩



阿部貴弘 教授(歴史まちづくり研究室)
専門 | 景観／都市史／歴史まちづくり

京都東山を借景とし琵琶湖疏水の水が流れる名勝「無鄰菴」庭園

無鄰菴は1896（明治29）年に元老山縣有朋が造営し、彼の命を受けた7代目小川治兵衛による作庭の近代日本庭園の傑作である。庭の主山は借景の東山で、里山の風景から深山の滝まで物語性あふれる空間を生み出し、施主と庭師の理想的関係が特徴。現在は作庭意図を基に文化財として長期的に育む取組計画が実施されている。せせらぎは、皇居が東京に移り経済衰退をたどる京都を活性化させるためにつくられた琵琶湖疏水から、南禅寺界隈で最初に有朋が別荘無鄰菴を築き直接引き入れた。京都のまちや庭園を散策するときに、その時代背景・歴史・地形・技術を読み解くとさらに感動が増します。



無鄰菴で抹茶と庭園を楽しんだ後は、琵琶湖から流れるせせらぎを聞きながら南禅寺界隈別荘群を散策してください



小木曾 裕 特任教授(小木曾研究室)
専門 | 都市計画／緑地計画

京の段差

現在、「段差」に興味をもっている。京の魅力のひとつは寺社巡りにあるが、それらのいくつかは高低差の地形を生かした場所に存在している。よって、その空間を楽しむためには特徴的な階段を越えていかななくてはならない。そこに存在する段差はどのくらいなのか気になって、興味半分いくつかをメジャー片手に計ってみた。八坂神社の階段は14cm、清水寺の山門直前の階段は18cm。これらの段差を昇降していかななくてはならないのである。



八坂神社の階段の段差



依田光正 教授(依田研究室)
専門 | まちと福祉テクノロジー

神戸港震災メモリアルパーク

山の手からベイエリアまで、たくさんの見どころが詰まっている兵庫県神戸市。今から26年前の1995（平成7）年1月17日、兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）がまちを襲った。私自身は小学2年生で、自宅が激しく揺れたことを鮮明に覚えている。

その地震を後世へ伝えるため、メリケンパークには岸壁の一部が震災遺構として保存されている。その遺構から背後に控える美しいまちなみへ目を移すと、いかに復興の道のりが険しいものであったかがひしひしと伝わってくる。



当時の被災状況が生々しく保存されている。人間は忘れる生き物。後世へ語り継ぐために「形」として残すことは極めて大切な



西山孝樹 助教(天野・西山研究室)
専門 | 観光計画／土木史





写真3 布引の滝の最上段にある雄滝。神戸中心街からわずか30分の距離にあるとは思えない壮大な景観



写真1 新神戸駅に迫る六甲山



写真2 新神戸駅のすぐ裏には生田川と親水広場が！知られざる穴場スポット



写真4 みはらし展望台からの港・神戸。眼前に迫るビル群が印象的

兵庫県神戸市

港・神戸を見下ろすビュースポット 「^{ぬのびき}布引」散策のススメ

神戸といえば、横浜と並ぶ「海のまち」のイメージがありますが、海からわずか数kmに六甲山脈がそびえる「山のまち」でもあります。阪神間では、この六甲山脈を境に海側が「表六甲」、反対側が「裏六甲」と呼ばれ、とくに表六甲は「おしゃれなまち神戸」として多くの人に認知されています。六甲山自体も最高峰の標高は931m（神戸市北区）と低いながらも、日本のゴルフ発祥の地である神戸ゴルフ倶楽部や六甲山牧場など、数々の観光名所を抱えています。今回は最も手軽に六甲山策ができる、「布引」周辺をご紹介します。

新神戸駅の両側にはトンネルがあるため新幹線に乗りしていると気づきませんが、生田川にかかる河川橋上駅舎になっており、そのすぐ裏には六甲山が迫っています

（写真1）。駅の山側にはちょっとした親水広場もあり、夏にはバーベキューや川泳ぎをする姿もみられます（写真2。ただし公式な泳ぎ場、バーベキュー場ではないので、自己責任で！）。この親水広場脇の遊歩道を道なりに進み登録有形文化財の砂金橋を渡ると、いよいよ六甲山「布引」登山口。ここから足を進めると、程なくして日本三大神滝のひとつ「布引の滝」に到着します。布引の滝は、下から順に雌滝、鼓滝、夫婦滝、雄滝の4滝で構成されており、とくに最上段の雄滝は落差43mの滝水と六甲特有の照葉樹林とのコントラストが圧巻です！（写真3）

さらに歩を進めると、港・神戸を一望できる、みはらし展望台へとたどり着きます。港・神戸はもちろん、天気の良い時に

は淡路島や関西国際空港も一望できる、標高175mのお手軽ビュースポットです（写真4）。「これでは物足りない、もっと観光を楽しみたい！」という方は、さらに足を進めると、布引貯水池や有名な布引ハーブ園に到着します。なお、このコースは初心者向けとはいえ、スニーカー着用が必須です。足下が気になる、あるいは時間がないという方は、ロープウエーで一気に布引ハーブ園まで行くこともできます。

このように見どころがたくさんある布引界限。新幹線の乗車時間まで少し時間があるという方は、散歩がてら新神戸駅周辺を回ってみてはいかがでしょうか？



押田佳子 准教授(押田研究室)
専門 | 造園学／観光まちづくり

大阪府大阪市

超高層建築物「あべのハルカス」

まちにはランドマークとなる建造物が存在しており、超高層建築物もそのひとつです。わが国では、1968（昭和43）年に竣工した霞が関ビルディングから超高層建築物の研究が本格的にスタートし、現在では高さ300mに達する建築物を実現できるまで技術的に進歩しています。超高層建築物には、各分野の最先端の技術が集約されています。人々の生活を豊かにするために、どのような技術が開発され適用されているか、目を向けてみるのもひとつの楽しみ方かと思います。



まちにそびえ立つ高さ300mの超高層建築物「あべのハルカス」



荒巻卓見 助手（後藤研究室（沿岸域防災研究室））
専門 | 建設材料・施工

大阪府大阪市

南港コスモスクエア（運河を軸とした埋め立て地のアーバンデザイン）

「咲洲」の110haの広大な敷地を対象に、当学科の横内憲久先生（現 日本大学名誉教授）とアーバンデザインに取り組んだ場所である。埋め立て地という“更地”でいかに豊かに地域性を創出するかが問われた当計画では、高層ビル群を山脈に見立て、その合間をアメニティ空間の運河が貫く「チャネルグランデ構想」を打ち立てた。この大空間を魅力的に一望できる場は「大阪府咲洲庁舎展望台」だが、意外にも上層階のトイレがリーゾナブルな格好の視点場になっている。ぜひご覧あれ！



計画地の西エリアとコスモスクエア駅。対岸は大阪万博予定地「夢洲」



岡田智秀 教授（岡田・落合研究室）
専門 | 景観まちづくり

大阪府大阪市

建築家の原案との差異を楽しみつつまち歩き

まち歩きの際には、そのまちや建物のデザイン意図をひもといてから訪れると感慨深い。大阪駅から少し離れた所に原広司氏が設計した「梅田スカイビル」がある。

初期のスケッチには、壮大な空中庭園で連結された超高層ビルが天空にそびえ、ガラスのカーテンウォールには空と雲がくっきりと映り込んでいる。実際の建物もスケッチ通りに空と雲を見せてくれる。建築家のデザイン意図がどのように具現化されたのか、原案・スケッチと見比べてみるのは楽しい。



原広司氏の「梅田スカイビル」初期のスケッチ



田中 賢 教授（田中研究室）
専門 | ユニバーサルデザイン

大阪府大阪市

賑わいのまち水都大阪を優雅に楽しむ「北浜テラス」

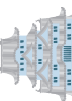
大阪市北部の土佐堀川沿いに位置する北浜地区では、民間主体の北浜水辺協議会が中心となって京都の鴨川のような川床が整備されています。北浜地区でもこの川床ができてから川がぐっと近くなり、対岸の中之島地区の水辺利用者の賑わいや行き交う船舶、水面越しの歴史的建造物など、水辺ならではの景色が楽しめるようになりました。皆さんも美しい景観を堪能しながら、コーヒー片手に優雅なひと時を楽しんでみませんか？



北浜テラス（川床）から見た魅力的な景観（土佐堀川や大阪市中央公会堂）



田島洋輔 助手（岡田・落合研究室）
専門 | 環境・防災まちづくり



兵庫
県



大阪
府

大阪府大阪市

阪急梅田駅

(現 大阪梅田駅)

「お題から外れる」との意見もあるかもしれませんが、駅は町を構成する重要な公共施設のひとつであることに異論はないと思うので挙げます。広大で荘厳な雰囲気さえ漂う駅構内。私はたった一度しか利用したことがないのですが、この空間に圧倒された印象が鮮明に残っています。



駅構内



仲村成貴 教授(仲村研究室)
専門 | 地震工学／防災／構造工学

大阪府大阪市

梅田貨物駅の跡地活用をきっかけに 開発や活用が進む大阪梅田エリア

2013(平成25)年のまちびらき以来、梅田の新たな顔となっている「グランフロント大阪」(先行開発区域)では、都市利便増進協定や道路占用許可の特例制度によりオープンカフェや広告を設置し、良好な都市景観の創出やタウンマネジメントを推進している。そして2期区域では、2024(令和6)年のまちびらきに向けて開発が進められている。現地に行く機会があれば、土地区画整理事業や地区計画等の都市計画決定手続きや都市再生特別地区による都市計画提案等、授業で学習した法制度や特例制度も思い出してほしい。



仮設店舗とテラス席により賑わいを生み出している歩行者空間



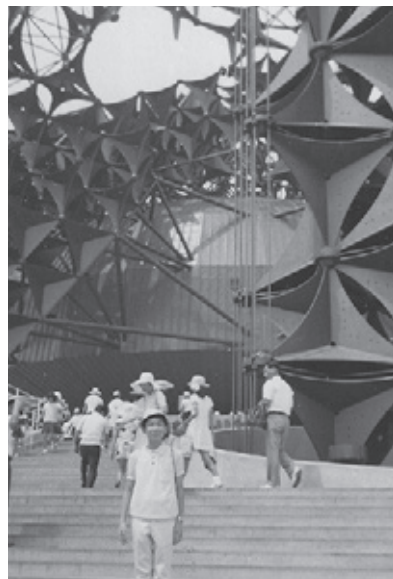
山崎 晋 准教授(山崎研究室)
専門 | 都市計画／建築計画／地域施設マネジメント

大阪府吹田市

日本万国博覧会会場＋記念公園

(総合プロデュース 丹下健三)

足を踏み入れたのは50年前の1970(昭和45)年である。「太陽の塔」(岡本太郎)を、遺構と見る人は少ないが、お祭り広場大屋根(丹下+あの坪井善勝だぞ)とセットで残さないと、単なるチキン像でかいそう。ついでに私は妄想の中で、あのパビリオン群をそのまま朽ち果てさせ、「棄景」の中にわが身を埋没してみた。単なるノスタルジーではない。その風景こそ「人類の進歩と調和」を、後世に伝える唯一の手段ではなかったか。



東芝 IHI 館前にて。新進気鋭の黒川紀章すごいぞ



八藤後 猛 教授(八藤後研究室)
専門 | 福祉まちづくり／建築安全計画

大阪府堺市

国内で最もバリアフリー整備がされた

「国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)」

まちは「バリアフリー法」や「福祉のまちづくり条例」に基づいて安全、安心、快適に過ごせるよう整備されています。その整備の最たる例は、厚生労働省が大阪府に建設した国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)です。例えば、エレベーターには車いす使用者用として少し低い位置にボタンがよく設置されていますが、ここでは全国でも珍しくフットスイッチも設置しています。さらに、児童館やショッピングセンターが隣接していて、ひとつの小さなまちになっています。ぜひ訪れて、さまざまなバリアフリー設備を学んでください!



外観(提供:国際障害者交流センター)



牟田聡子 助手(八藤後研究室)
専門 | 福祉／子ども

本年度の進路決定状況（2021年3月5日現在）は表1の通りです。本年4～5月には、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出により、就職活動を一時停止せざるを得なかっただけでなく、企業の選考スケジュールの見通しが立たずに不安を感じた学生もいたようです。また公務員試験は例年より概ね2～3カ月遅れ、公務員志望者にとっては長期間の就職活動を強いられました。しかしながら、このような状況下においても、まちづくり工学科学生の進路決定率は概ね例年通り堅調に推移してきました。

本年度の特筆すべき事項として、まちづくり工学科設立以来、初めて国家公務員総合職第1次試験の合格者を輩出したことが挙げられます。一気に4名が合格し、理工学部14学科で最も多くの合格者を輩出した学科となりました（うち1名は2次試験も合格）。

図1に就職先の業種別割合（進学含む）、表2に就職・進学先一覧、図2にこれまでの修了・卒業生の就職先業種別割合（進学含む）を示します。本年度は、例年よりも官公庁への就職者の割合がやや減り、建設

コンサルタントへの就職者が大幅に増加、進学者も増加しました。本年度卒業生の多くが学部3年次に夏季インターンシップ実習に参加しており、その経験を基に早い時期から進路を考え、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を最小限にとどめたのかもしれない。

表1 就職・進学状況（2021年3月5日現在）

	学部			大学院			合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	
在籍者数	109人	35人	144人	3人	2人	5人	149人
就職・進学希望者数	99人	35人	134人	2人	2人	4人	138人
就職者数	82人	30人	112人	2人	1人	3人	115人
進学者数	8人	4人	12人	0人	1人	1人	13人
決定率*	90.9%	97.1%	92.5%	100%	100%	100%	92.8%

※決定率＝（就職者数＋進学者数）／就職・進学希望者数

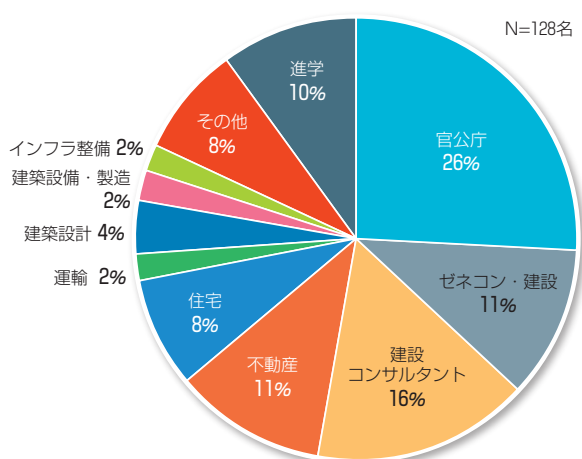


図1 業種別割合

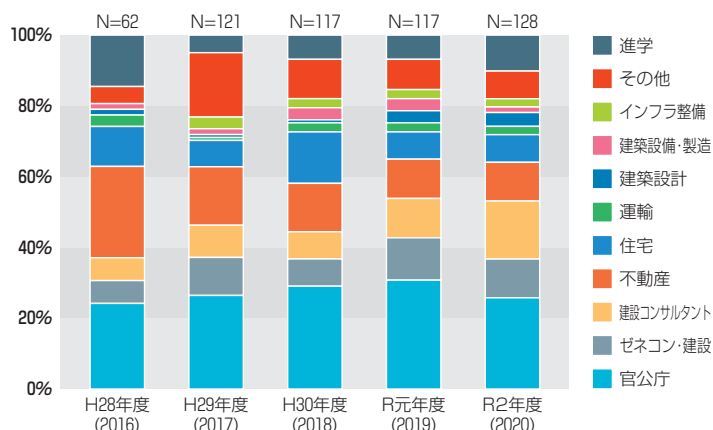


図2 まちづくり工学専攻修了生・まちづくり工学科卒業生の就職先業種別割合（修了・卒業時に進路未決定者を除く。令和2年度は2021年3月5日現在）

表2 就職・進学先一覧

業種	企業・団体名(〔〕内は人数)	人数
官公庁	国土交通省関東地方整備局〔土木1〕、東京都庁〔土木6〕、埼玉県庁〔土木2〕、千葉県庁〔土木4〕、静岡県庁〔土木2〕、福島県庁〔土木1〕、川崎市役所〔土木1〕、さいたま市役所〔土木1〕、横浜市役所〔土木2・建築1〕、熊谷市役所〔土木1〕、狛江市役所〔行政1〕、東久留米市役所〔土木1〕、松戸市役所〔土木1〕、武蔵野市役所〔建築1〕、横須賀市役所〔土木1〕、江戸川区役所〔土木1〕、大田区役所〔土木1〕、品川区役所〔土木1〕、渋谷区役所〔土木1〕、港区役所〔土木1〕、目黒区役所〔建築1〕	33人
ゼネコン・建設	(株)大林組〔建築施工1〕、鹿島建設(株)〔建築施工2〕、(株)竹中工務店〔建築施工1〕、(株)熊谷組〔土木施工1〕、五洋建設(株)〔建築施工1〕、高松建設(株)〔建築施工2〕、(株)長谷工コーポレーション〔建築施工1〕、(株)フジタ〔1〕、前田建設工業(株)〔建築施工1〕、新発田建設(株)〔1〕、(株)平成建設〔1〕、(株)ワールドコーポレーション〔1〕	14人
建設コンサルタント	日本工営(株)〔2〕、(株)建設技術研究所〔1〕、いであ(株)〔1〕、(株)オオバ〔1〕、国際興業(株)〔1〕、昭和(株)〔1〕、大日本コンサルタント(株)〔1〕、玉野総合コンサルタント(株)〔2〕、中央コンサルタンツ(株)〔2〕、(株)東設土木コンサルタント〔1〕、(株)トーニチコンサルタント〔1〕、日本振興(株)〔1〕、(株)復建エンジニアリング〔1〕、(株)URリンケージ〔1〕、リテックエンジニアリング(株)〔2〕、関東建設マネジメント(株)〔1〕、(株)横浜コンサルティングセンター〔1〕	21人
不動産	清水総合開発(株)〔2〕、大成有楽不動産(株)〔3〕、(株)東急コミュニティー〔4〕、東急ファシリティサービス(株)〔1〕、東京不動産管理(株)〔1〕、日本ハウズイング(株)〔1〕、三井住友トラスト不動産(株)〔1〕、ユーミーらいふグループ〔1〕	14人
住宅	大和ハウス工業(株)〔設計1・施工1〕、積水ハウス(株)〔2〕、(株)一条工務店〔2〕、ハウスコム(株)〔1〕、日本総合住生活(株)〔1〕、(株)ヤマダホームズ〔1〕、(株)平成建設〔1〕	10人
運輸	東海旅客鉄道(株)〔建築1〕、東日本旅客鉄道(株)〔土木1〕、東日本高速道路(株)〔施設1〕	3人
建築設計	(株)石黒建築設計事務所〔1〕、(株)綜企画設計〔1〕、新企画設計(株)〔1〕、(株)山設計工房〔1〕、(有)インツキ〔1〕	5人
建築設備・製造	(株)武村コーポレーション〔1〕、(株)日本陶業〔1〕	2人
インフラ整備	東電タウンプランニング(株)〔2〕、東京都下水道サービス(株)〔1〕	3人
その他	イオンモール(株)〔1〕、西武造園(株)〔1〕、(株)ナテックス〔1〕、(株)オンワード樫山〔1〕、日本交通(株)〔1〕、(株)INE〔1〕、レイス(株)〔1〕、(株)パル〔1〕、さがみ農業協同組合〔1〕、(株)紀ノ国屋〔1〕	10人
進学	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程まちづくり工学専攻〔9〕、早稲田大学大学院人間科学研究科〔1〕 他	13人

令和2年度 まちづくり工学科研究業績

審査付き論文

Hiroshi Gotoh, Mitsumasa Yoda, Hiroshi Jonai, Mitsuo Takezawa: A Study on the Visual Effect of Light Scattering Reflected by the Water Surface on Waterside Space Design, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Vol.8, No.1, pp. 221-233, 2020.

Masataka Nakamura, Yuta Koyama, Kosuke Sakai: Preparations and behaviors of proactive tsunami evacuees during the Great East Japan Earthquake, the 2020 17WCEE Proceedings, 5f-0010, 2020.

植田瑞昌・東祐二・八藤後猛：重度障害児の成長と発達に伴う排泄環境の変化に関する事例研究，日本建築学会計画系論文集，Vol.779, pp.49-59, 2021.

大平和弘・上田萌子・押田佳子・上南木昭春：八重山の川平・竹富・干立における御嶽の空間と祭事の継承に関する研究，農村計画学会誌論文特集号，Vol.39, pp.222-231, 2020.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『徳川実紀』にみる江戸時代前中期の道路行政制度―「橋梁」に関する事項に着目して―，土木学会論文集 D2（土木史），Vol.76, No.1, pp.51-70, 2020.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：『南紀徳川史』にみる社会基盤整備の記述に関する基礎的研究，土木学会論文集 D2（土木史），Vol.77, No. 1, pp.21-37, 2021.

西山孝樹・金子正輝・田中賢・天野光一：トランジットツアー実施による地元門前町への波及に関する基礎的研究―成田山新勝寺表参道周辺を対象として―，日本大学理工学部理工学研究所研究ジャーナル第148号，pp.1-12, 2021.

荒巻卓見・後藤浩・岡田智秀：東京都沿岸に整備された外郭防潮堤の平常時の景観を考慮した更新時の留意点，土木学会論文集 B3（海洋開発），Vol.76, No. 2, pp. I_570-I_575, 2020.

荒巻卓見・中田善久・大塚秀三・宮田敦典・稲澤琴恵：木目模様を転写するコンクリート打放し仕上げに用いる型枠の構成材料に関するアンケート調査，日本建築学会技術報告集，Vol.26, No.64, pp.875-880, 2020.

荒巻卓見・中田善久・大塚秀三・宮田敦典：建築現場におけるコンクリート型枠用合板の転用に伴う品質変化に関する一考察，日本建築学会技術報告集，Vol.27, No.65, pp.58-63, 2021.

田島洋輔・岡田智秀：東京臨海部における水上交通の事業特性に関する研究―航路の変遷と事業形態の変化に着目して―，土木学会論文集 D3（土木計画学），Vol.76, No.2,

pp.156-167, 2020.

松嶋健太・田島洋輔・吉岡崇仁：木質バイオマスを活用した住宅用熱供給システムの導入可能性に関する研究，土木学会論文集 G（環境），Vol.76, No.2, pp.18-27, 2020.

田島洋輔・岡田智秀：東京臨海部における水上交通の魅力向上に向けた海上景観の構図特性に関する研究，土木学会論文集 B3（海洋開発），Vol.76, No.2, pp. I_917-922, 2020.

牟田聡子・八藤後猛：妊娠期の住宅内事故が発生した住環境と身体変化の関連妊娠前から乳幼児期の環境変化に着目した整備に関する研究 その2，日本建築学会計画系論文集，Vol.769, pp.473-483, 2020.

招待論文(学会から依頼された論文／審査付)

八藤後猛：特集：検証・我が国のバリアフリー，1964年東京パラリンピックが我が国福祉まちづくりに与えたもの 2020年東京パラリンピック開催準備によって新たに出てきた課題と今後の期待，リハビリテーション，公益財団法人鉄道弘済会「社会福祉研究」編集室，Vol.621, pp.35-39, 2020.

口頭発表(審査なし)

後藤浩・佐藤孝治・前野賀彦・竹澤三雄：首都直下型地震における人的被害想定を考慮した火葬場の空間配置の問題点に関する考察，第47回土木学会関東支部技術研究発表会，2020.3.4-5.

矢代由衣・仲村成貴：自治体が民間団体と締結する災害時応援協定の内容分析―災害対応についての課題との関連―，第47回土木学会関東支部技術研究発表会，2020.3.4-5.

工藤隼人・仲村成貴：避難所の収容人数を考慮した津波避難計画に関する基礎的検討，第47回土木学会関東支部技術研究発表会，2020.3.4-5.

西川元陽・仲村成貴：基礎自治体が管理する避難施設と防災備蓄倉庫の立地状況，第47回土木学会関東支部技術研究発表会，2020.3.4-5.

松本夏輝・仲村成貴：常時微動および地震観測記録に基づく造成地表層地盤の震動特性，第47回土木学会関東支部技術研究発表会，2020.3.4-5.

秋元美咲・依田光正：住宅内スキップフロアを想定した段差における昇降動作分析に関する研究，第29回ライフサポート学会フロンティア講演会，2020.3.12.

野口孝俊・野中美貴子・阿部貴弘：東京湾第一海堡を観光資源として活用する課題分析と提案，土木学会第61回土木計画学研究発表会・春大会，2020.6.13-14.

西山孝樹・藤田龍之・天野光一：地方藩史にみる社会基盤整備の記述―『南紀徳川史』を対象として―，土木学会第40回土木史研究発表会，2020.7.11-12.

伊東裕・田中賢：鉄道線路への転落者の救助の可能性に関する研究，2020年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2020.9.8-10.

田中賢：秩父34ヶ所礼所のバリアフリーに関する調査，2020年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2020.9.8-10.

高瀬大樹・南部世紀夫・田中賢・樋野公宏：夜間の犯罪不安感と物理的環境指標の関係―大学キャンパスにおけるフィールド調査報告，2020年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2020.9.8-10.

植田瑞昌・東祐二・八藤後猛：重度障害児・者の自宅内排泄場所と福祉用具の使用に関する経年変化の検討，2020年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2020.9.8-10.

北村駿季・八藤後猛・牟田聡：事業者と地域住民間の意識の相違―地域活性化事業における，住民参加に関する研究（その2）―，2020年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2020.9.8-10.

北村駿季・八藤後猛・牟田聡：事業者と地域住民間の意識の相違―地域活性化事業における，住民参加に関する研究（その3）―，2020年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2020.9.8-10.

上野開生・押田佳子：「近代における西洋建築と日本庭園との融合・調和のためのデザイン手法に関する研究」，2020年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2020.9.8-10.

秋元美咲・依田光正：屋内での AED 移動実験を通じた AED 使用理解への基礎的検討，2020年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2020.9.8-10.

落合正行・岡田智秀：遊休建物の地域的活用に関する基礎的研究―東京都・文京区社会福祉協議会の「地域の居場所づくり」に着目して―，2020年度日本建築学会大会（関東）学術講演会，2020.9.8-10.

後藤浩・佐藤孝治・前野賀彦・竹澤三雄：首都直下型地震における人的被害想定を考慮した火葬場の空間配置の問題点に関する考察，土木学会第75回年次学術講演会，2020.9.9-11.

西山孝樹・天野光一：現地学習を基幹とした「まちづくりワークショップ」の実践，土木学会第75回年次学術講演会，2020.9.9-11.

菊原綾乃・阿部貴弘：都市中小河川流域における水辺空間利用と河川整備の変遷に関する研究，土木学会第75回年次学術講演会，2020.9.9-11.

渡辺万紀子・天野光一・西山孝樹：街路に形成された中間領域が始まる位置と影響を及ぼす構成要素の推定，土木学会第75回年次学術講演会，2020.9.9-11.

勇崎大翔・岡田智秀・三溝裕之：「立地適正化計画」を活用したみなとまちづくりに関する研究—北海道室蘭市における市民意識から捉えた地域構造に着目して—，土木学会第75回年次学術講演会，2020.9.9-11.

樋口伊吹・岡田智秀・田島洋輔・横内憲久・三溝裕之：ウォーターフロント開発の事後評価に関する研究—（その2）七尾フィッシャーマンズワープの事業経緯と事業者間連携に着目して—，土木学会第62回土木計画学研究発表会・秋大会，2020.11.13-15.

勇崎大翔・岡田智秀・三溝裕之：「立地適正化計画」を活用したみなとまちづくりに関する研究—北海道室蘭市における市民意識から捉えた地域構造に着目して—，土木学会第62回土木計画学研究発表会・秋大会，2020.11.13-15.

落合正行・岡田智秀・初本みなみ：わが国のみなとまちづくりに関する「倉庫リノベーション」の促進方策に関する研究—「みなとオアシス」登録16港の法制度に着目して—，土木学会第62回土木計画学研究発表会・秋大会，2020.11.13-15.

小木曾裕：原宿表参道の都市計画制度と並木の変遷に関する考察，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

檜山明来・小木曾裕：檜山清澄白河のカフェの萌芽と現状に関する研究，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

アンドレチェック怜・山崎晋：都市再生特別地区における防災に関わる公共貢献に関する研究—東京都の事例を対象として—，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

板谷一輝・上村美音・山崎晋：鉄道駅を中心とした駅型保育園の園外活動における経路の要素に関する研究—JR 東日本グループ子育て支援事業に着目して—，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

神田侑伎乃・山崎晋：大学キャンパスにおける交流空間の一般開放に関する研究，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

稲川貴大・山崎晋：共同住宅における公開空地の空間特性に関する研究—東京都33事例を対象として—，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

北岡航太・山崎晋：東京都のマルシェによる公開空地の活用の実態に関する研究，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

増子祐也・山崎晋：外出自粛要請時における幕張ベイタウンのパティオ(中庭)及び周辺公園の利用実態と住民評価に関する研究，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

福田絢大・山崎晋：プロ野球本拠地球場のボールパーク化に関する研究，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

小島大祐・山崎晋：民間空地等の一体的な活用に関する基礎的研究—東京のしゃれた街並みづくり推進条例のまちづくり登録団体を対象に—，2020年度日本造園学会関東支部大会，2020.11.28.

秋元美咲・依田光正：歩行補助つえ使用の「きっかけ」に関する基礎的調査，日本人間工学会第50回関東支部大会，2020.12.1.

前野凱・阿部貴弘：歴史的景観の保全・形成に資する老舗商店の外観デザインに関する研究—神奈川県小田原市景観計画重点区域を事例として—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

實方琢人・阿部貴弘：近世城下町における水系の設計論理に関する研究，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

田代優人・天野光一・西山孝樹：カナダ・バンクーバーにおけるパークレットの運用とその実態に関する基礎的研究，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

池田はる・天野光一・西山孝樹：古民家カフェと地域住民の繋がりに関する基礎的研究—カフェに関する書籍および雑誌記事を対象として—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

篠崎涼介・天野光一・西山孝樹：土木学会選奨土木遺産の利活用に関する基礎的研究 その1—関東地方を対象として—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

高橋諒・天野光一・西山孝樹：東京都板橋区「ハッピーロード大山商店街」の地域活性化に関する基礎的研究，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

戸田圭祐・天野光一・西山孝樹：土木学会選奨土木遺産の利活用に関する基礎的研究 その2—西部(九州・沖縄)地方を対象として—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

中尾友哉・天野光一・西山孝樹：土木学会選奨土木遺産の利活用に関する基礎的研究 その3—北海道地方を対象として—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

中本将威・天野光一・西山孝樹：コロナ禍における道路占用許可基準の緩和に伴う沿道店舗の路上利用に関する基礎的研究，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

仲山涼介・天野光一・西山孝樹：わが国の空港における観光拠点化に関する基礎的研究—東北方に所在する地方管理空港を対象と

して—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

渡辺和幾・天野光一・西山孝樹：公共空間における賑わい創出に関する基礎的研究—東京国際交流館前空間における社会実験を通して—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

桃井悠・天野光一・西山孝樹：図書館の空間利用にみる多機能化に関する基礎的研究—グッドデザイン賞を受賞した図書館を対象として—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

佐藤明穂・岡田智秀・勇崎大翔：伊豆半島津波対策地区協議会を通じてみた津波防災まちづくりに関する研究—（その1）熱海市および伊東市の12地区を対象とした地区整備方針について—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

勇崎大翔・岡田智秀・佐藤明穂：伊豆半島津波対策地区協議会を通じてみた津波防災まちづくりに関する研究—（その2）熱海市および伊東市の12地区を対象とした地区整備方針と地域特性との関係について—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

土屋祐大・岡田智秀・勇崎大翔：日常利用と防災機能を有する海岸防災施設「命山」に関する研究—静岡県袋井市に現存する「命山」の歴史変遷に着目して—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

三輪陽子・岡田智秀・三溝裕之・勇崎大翔：「立地適正化計画」を活用したみなとまちづくりに関する研究—（その3）北海道室蘭市における市民の心理的要素から捉えた地域構造に着目して—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

浅井凜太郎・岡田智秀・落合正行：わが国のみなとまちづくりに関する遊休倉庫の活用特性に関する研究—「みなとオアシス」登録16港のリノベーション倉庫の立地に着目して—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

久保凜一郎・岡田智秀・落合正行：都市部市街地に立地する遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」に関する研究—東京都台東区蔵前地区および墨田区本所地区周辺を対象として—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

菊池晃央・岡田智秀・落合正行・栗本賢一・川内聡士：東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価に関する研究—（その1）江東区・大田区を対象とした政策実績報告書の実態把握—，令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会，2020.12.2.

川内聡士・岡田智秀・落合正行・栗本賢一・菊池晃央：東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価に関する研究—（その2）江東区・大田区を対象とした政策実績報告書の比較分析—，令和2年度(第64回)日本

大谷理工学部学術講演会, 2020.12.2.

栗本賢一・岡田智秀・落合正行：東京臨海6区における小地域単位に着目した産業集積・共集積の分析—EG集積指数と2変量Local Moran's I統計量を用いた産業共集積の識別—, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

喜村紗英・岡田智秀・落合正行：都市部における遊休施設を活用した「地域の居場所」の計画プロセスに関する研究—東京都文京区の「氷川下つゆくさ荘」に着目して—, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

小濱圭祐・岡田智秀・落合正行・松岡七海：都市型人工海浜の管理方策に関する研究—東京湾沿岸の人工海浜の管理主体に着目して—, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

江川莉奈・岡田智秀・田島洋輔・横内憲久・三溝裕之・樋口伊吹：ウォーターフロントにおける賑わい活動の空間的波及に関する研究—七尾フィッシャーマンズワープに着目して—, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

三浦みなみ・岡田智秀・田島洋輔・大滝一步：都内水上交通の魅力向上に資する動画コンテンツの活用方策に関する研究—水上交通事業者が投稿したWeb公開動画に見る景観分類—, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

福永裕大・高村義晴：コンパクトシティ実現における課題について—東京近郊の諸都市を例に—, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

山本一葉・高村義晴：「小さな拠点」形成の実践から見える大都市部における疲弊地域の創生手法に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

武田優希・田中賢：マイノリティの訪日外国人の不便さに関する基礎的研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

鬼澤美妃・田中賢：アルビノの人々の福祉のまちづくりに関する基礎的研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

伊東裕・田中賢：適疎のまち・東川町の可能性と課題について, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

鶴川春加・仲村成貴：新幹線単独駅の帰宅困難者対策に関する基礎的調査, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

橋本天真・仲村成貴：千葉県における災害の想定区域と福祉施設・避難施設の立地状況, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

伊橋雅史・仲村成貴：地震で被災した地方自治体の観光防災対策に関する文献調査—地域防災計画に着目して—, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

北村駿季・八藤後猛：都市における公共空間とその社会性—パブリックスペースと人の行為, 周辺環境との相互関係—, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

小木曾裕：表参道の都市計画の地区計画と風致地区の変遷から見た緑地環境の関係に関する考察, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

檜山明来・小木曾裕：清澄白河周辺の歴史や文化と結びつくカフェまちづくりに関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

濱田健太郎・高宗明日香・渡邊敦紀・小木曾裕：宿泊施設の年代による変化と各施設の現状について, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

渡邊敦紀・高宗明日香・濱田健太郎・小木曾裕：軽井沢宿泊施設の意識調査によるコロナ禍の現状と利用者の実態に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

福山健太・押田佳子：東京都心のアンテナショップにみる地域活性化への影響に関する基礎的研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

佐下桐あゆみ・押田佳子：鎌倉市におけるオーバーツーリズムの実態と発生プロセスに関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

西垣霖・押田佳子：中国のソーシャルネットワークサービスを通じてみた六義園の魅力要素に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

江口純平・押田佳子：神奈川県箱根町における災害後の観光復興への取り組みに関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

上野開生・押田佳子：近世における江戸の花見処の継承状況に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

真野晏州力・押田佳子：江戸時代の浮世絵にみる庶民園芸の実態に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

金山理菜・押田佳子：防災教育教材としての「防災かるた」のメッセージ性に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

押田佳子：三橋旅館が鎌倉長谷の近代化に及ぼした影響に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

曾我田啓太・山崎晋：千葉県のサービス付き高齢者向け住宅の立地環境に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

石井理桜子・山崎晋：立地適正化計画における居住誘導区域と土砂災害(特別)警戒区域の関係性及び防災機能に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

稲川貴大・山崎晋：東京都を事例とした共同住宅における公開空地の空間特性に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

神田侑伎乃・山崎晋：大学と地域コミュニティ形成における大学内の交流空間に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

増子祐也・山崎晋：外出自粛要請時における幕張ベイタウンのパティオ(中庭)の利用実態と住民評価に関する研究, 令和2年度(第64回)日本大学理工学部学術講演会, 2020.12.2.

松岡七海・岡田智秀：都市型人工海浜における整備要件および利用特性に関する研究—都内初の区立人工海浜大森ふるさとの浜辺公園を対象として—, 土木学会第16回景観・デザイン研究発表会, 2020.12.5-6.

三浦みなみ・岡田智秀・田島洋輔：都内水上交通事業者が公開したWeb動画にみる景観分類とその特徴に関する研究, 自然環境復元学会第21回全国大会研究発表会, 2021.2.12.

大滝一步・岡田智秀・田島洋輔：都内水上交通の魅力向上に資するWeb動画の制作特性に関する研究, 自然環境復元学会第21回全国大会研究発表会, 2021.2.12.

学会誌報告(都市計画報告集等：査読なし)

柳原純夫・仲村成貴・後藤洋三・山本幸・柿本竜治：平成28年熊本地震後初期の建設会社の応急復旧対応に関する調査結果, 第40回土木学会地震工学研究発表会論文集, 2020.10.

小木曾裕：先買い方式の土地区画整理事業における北下がり地形を活かした集合住宅地の植栽空間の価値, 都市計画報告集, 日本都市計画学会, No.19, pp.218-223, 2020.9.

ポスター発表(審査なし)

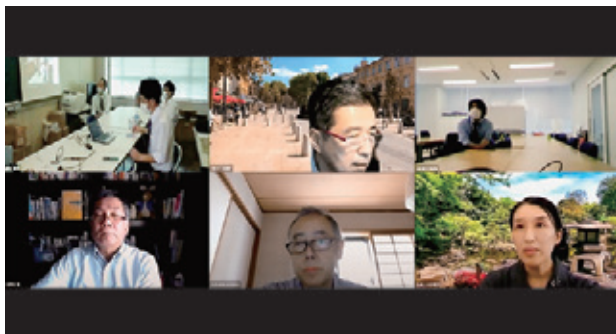
渡邊敦紀・濱田健太郎・高宗明日香・小木曾裕：軽井沢宿泊施設の時代による変化とコロナ禍での意識調査による研究, 2020年度日本造園学会関東支部大会, 2020.11.28.

研究業績につきましては日本学術会議協力学術研究団体の所属機関における論文および発表、理工学部及び工学部学術講演会での発表を掲載しております。ご了承ください。

令和2年度後期 “まち” 行事・イベントカレンダー

10/24 土 大学院まちづくり工学専攻 博士論文研究計画等発表会・修士 論文経過審査会(オンライン開催)

博士前期課程1年生の7名、博士後期課程1年生の1名、計8名が発表を行いました。



11/1 日 パーチャルオープンキャンパス Special Day! 船橋キャンパスウォッチング

「グループ説明会」および「学科・入試個別相談」を実施し、参加者の皆さんには、学科の雰囲気オンラインで体感いただきました。

12/2 水 令和2年度(第64回) 理工学部学術講演会

今年も恒例の理工学部学術講演会が開催され、まちづくり工学科からは以下の学生が優秀発表賞を受賞しました。

實方琢人(博士前期課程2年 阿部研究室)

近世城下町における水系の設計論理に関する研究

高橋 諒(4年 天野・西山研究室)

東京都板橋区「ハッピーロード商店街」の地域活性化に関する基礎的研究

桃井 悠(4年 天野・西山研究室)

図書館の空間利用にみる多機能化に関する基礎的研究—グッドデザイン賞を受賞した図書館を対象として—

江川莉奈(4年 岡田・落合研究室)

ウォーターフロントにおける賑わい活動の空間的波及に関する研究—七尾フィッシャーマンズワーフに着目して—

土屋祐大(4年 岡田・落合研究室)

日常利用と防災機能を有する海岸防災施設「命山」に関する研究—静岡県袋井市に現存する「命山」の歴史変遷に着目して—

三輪陽子(4年 岡田・落合研究室)

「立地適正化計画」を活用したみなとまちづくりに関する研究—(その3) 北海道室蘭市における市民の心理的要素から捉えた地域構造に着目して—

鶴川春加(4年 仲村研究室)

新幹線単独駅の帰宅困難者対策に関する基礎的調査

上野開生(4年 押田研究室)

近世における江戸の花見処の継承状況に関する研究

佐下橋あゆみ(4年 押田研究室)

鎌倉市におけるオーバーツーリズムの実態と発生プロセスに関する研究

12/10 木 日本大学習志野高等学校 CSTコース 2年生 駿河台校舎見学会

CST コース高校2年生の皆さんに向けて、まちづくり工学科の説明を動画で実施しました。(日本大学習志野高等学校視聴覚教室においてオンデマンド形式で実施)



12/12 土 まちづくり工学専攻博士前期課程 第2回修士論文審査会

博士前期課程2年生の5名がオンラインで発表を行いました。

12/21 月 - 1/29 金 令和2年度 企業セミナー

下記の企業に参加いただき、オンラインで開催しました。

鹿島建設、清水建設、佐藤工業、大林組、三協フロンテア、熊谷組、大林道路、フジタ、UR リンケージ、オリエンタルコンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、リテックエンジニアリング、日本工営、中央コンサルタンツ、大日本コンサルタント、日本振興、オリジナル設計、オオバ、玉野総合コンサルタント、東電設計、千代田コンサルタント、長谷工不動産ホールディングス、テンワス、都市再生機構、鹿島建物総合管理、JR 東日本ビルテック、UR コミュニティ、東日本旅客鉄道、東海旅客鉄道、中日本高速道路、大和ハウス工業、三井ホーム、日軽エンジニアリング、ヨシモトポール、東亜レジン、日本コムシス、東電タウンプランニング、アビリティーズ・ケアネット、西武造園

2/17 水 卒業研究発表審査会



ユニットA



ユニットB



ユニットC



ユニットD

2/24 水 修士論文審査会



駿河台校舎タワー・スコラ S201教室における発表の様子をオンラインで繋ぎ、まちづくり工学専攻修士論文最終審査会を実施しました。

3/8 月 卒業発表・修了発表

本年度の卒業生数は135名（9月卒業1名を含む）、修了者数は5名です。

令和2年度 まちづくり工学科各賞受賞者

最優秀修士論文賞

■ 樋口伊吹：地方中小港湾におけるウォーターフロント開発を中心としたみなとまちづくりに関する研究 ―七尾フィッシャーマンズワーフの事業内容とその空間的特徴に着目して―

桜まち修士論文賞

■ 松岡七海：背後の土地利用からみた都市型人工海浜の機能特性に関する研究 ―東京湾沿岸の全9海浜を対象として―

最優秀発表賞

■ 鶴川春加：新幹線利用客を対象とした帰宅困難者対策 ―新幹線単独駅が存在する基礎自治体における対策の現状調査―

優秀発表賞

■ 江川莉奈：ウォーターフロントにおける賑わい活動の空間的波及に関する研究 ―七尾フィッシャーマンズワーフに着目して―

■ 三浦みなみ：都内水上交通事業者が公開したWeb動画にみる景観分類とその特徴に関する研究

■ 黒田健斗：大学機関の地域貢献に関する研究 ―災害時のキャンパス活用に着目して―

■ 久保凛一郎：都市部の市街地に立地する遊休倉庫を活用した「エリアリノベーション」に関する研究 ―東京都墨田区本所地区および台東区蔵前地区を対象として―

■ 田代優人：カナダ・バンクーバーにおけるパークレットの運用とその実態に関する基礎的研究

■ 佐下橋あゆみ：鎌倉におけるオーバーツーリズムの対策プロセスに関する研究

■ 前野 凱：歴史的景観の保全・形成に資する老舗商店の外観デザインの形成過程に関する研究 ―神奈川県小田原市を対象として―

桜まち卒業論文賞

■ 池田はる：古民家カフェと地域住民の繋がりに関する基礎的研究 ―カフェに関する書籍および雑誌記事を対象として―

■ 喜村紗英：都市部における遊休施設を活用した「地域の居場所」の計画プロセスに関する研究 ―東京都文京区の「氷川下つゆくさ荘」に着目し

て―

■ 伊橋雅史：地震で被災した基礎自治体における観光客対応の課題と対策

■ 平井愛澄：洪水災害と河道の空間形状特性との関係に関する考察

■ 鬼澤美妃：アルビノの人々の福祉のまちづくりに関する基礎研究

■ 齋藤優太：造成地の地盤災害危険度評価に利用可能な地盤情報の収集とデジタル化

■ 手塚千尋：建設業者の応急復旧作業に対する住民の認識

■ 上妻賢治：谷津干潟における水質悪化・臭気発生メカニズムと環境改善策

■ 福山健太：東京都内のアンテナショップの観光案内活動にみる地方活性化への影響に関する研究

優等賞

仲山涼介、増田匠真、土屋祐大、久保凛一郎

桜工賞

稲川貴大、中坂俊介、三輪陽子

このたび第3代まちづくり工学科教室主任の2期目を務めさせていただくことになりました岡田智秀です。当教室の皆様方よりお寄せいただきました期待と信頼に応えるべく、引き続き学科運営に最大限の努力をもって注力してまいりますので、何卒よろしくお願いいたします。

さて、私の教室主任初就任の際に掲げた主たる学科運営配慮事項は三つありました。

第一が「ワンストップチェック」です。一般的に、組織運営が軌道に乗り始めると個々の工夫が慣例化してマンネリ化や硬直化を生み出す危険をはらみます。時代は刻々と変化する中で、学科運営のこれまでの取り組みを今一度点検し、より良い方向へと改良・転換する姿勢を持つというものです。第二が「学生ファーストと若手人材育成」です。社会の価値観の多様化とともに学生の価値観や生活環境も多様化しています。このため、学生個々の話に十分に耳を傾け、学生個々の価値観に即したきめ細かい教育・研究指導を共有していくとともに、若手教員が有意義に学科運営に取り組めるよう、業務バランスに配慮して研究実績向上を促すよう心がけていくというものです。第三が「学生の入口・出口・そのプロセスの充実化」です。学生の入口部分の対応として適切な理解と入学意欲を高める広報活動、学生の出口部分としては就職活動のモチベーション向上策と就職内定率維持、そして卒業までのプロセスとして、自ら課題を見つけ課題解決の道筋がつけられる自主創造力、当学科への母校愛・帰属意識の向上などに取り組むというものです。

1期目の任期を振り返ると、上述の配慮事項をはじめとする学科運営は好調な滑り出しに感じられたことは、ひとえに教室の教職員のみならずとともにワンチームになってさまざまな事案に取り組めたことが奏功したと考えており、教室関係者の皆様方にはこの場を借りて厚く御礼申しあげる次第です。翻って1期目の任期終盤、特に昨年2月以降から一気に高まった新型コロナウイルス問題は、まったくの想定外の緊急事態であり、その状況は今もなお続いているところですが、このような状況下であるからこそ、上述の三つの配慮事項はますますその必要性和意義を痛切に感じるに至っております。特

に、本年度4月から続くオンライン授業においては、対面授業を望む声がある一方、感染防止策としてオンライン授業を評価する声もある中で、いま取り組める現実的な手段は、本学部の方針通りに、在宅授業を望む声に対してオンライン授業を継続しつつ、社会の感染動向を確認しながら対面授業の受け入れ制限数の段階的緩和により、最終的には全面的な対面授業を実現させるアプローチが重要との認識であります。現下の新型コロナウイルス問題は「新型」という文字が物語っているように、科学的知見の蓄積がないだけに、社会の感染動向および最新情報の確認と授業形式に対しては段階的手段をとることが大切であり、これは、住民の合意形成をふまえながら段階的かつ波及的に地域活性化活動や施設整備を展開するまちづくりプロセスと相通じるものと考えます。

一方、日本社会ではこのコロナ禍により“新たな日常”として、テレワーク形式の就業形態やオンライン形式の授業のほか、「3密（密集・密閉・密接）対策」により飲食形態や観光形態などに変化がはじめています。すなわち、在宅時間がほぼ終日となる就業・学業形態が増えつつある中、身近な地元の屋外空間で楽しむ飲食や散策のほか、企業の地方都市への移転、郊外において観光と就業を同時に満足する“ワーケーション”の出現など、地方都市や近郊都市を中心に新たなライフスタイルが芽生え始めています。このような新たなライフスタイルを“豊かな日常”と感じられるヴィジョン構築が“with コロナ”“after コロナ”に対応した「新たなまちづくり」として求められはじめたことに気づきます。こうした新たな社会ニーズに対応したまちづくりの理念や研究・教育を展開する必要性を感じており、そのためには、在学生との新時代に対応した研究活動はもとより保護者様や卒業生も含めたご関係の皆様方のご支援とご協力が欠かせません。

つきましては、まちづくり工学科教職員ならびにご関係の皆様方との「輪（和）」を育みつつ、現下の困難を乗り越え、まちづくり工学科の栄えある10周年に向けて新たな地平を築いてまいりたいと存じます。引き続きのご支援とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

◆ お知らせ

令和3年度まちづくり工学科海外研修旅行中止

まちづくり工学科では、1年おきに海外研修旅行を実施していました。令和3年度は実施年になりますが、新型コロナウイルスの影響により中止することとなりました。次年度以

降についても、情勢を見ながら実施の可否を決めていきたいと思っています。

（令和3年度海外研修旅行担当 教授 八藤後 猛）

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

〔受賞〕

■ 助教 西山孝樹

土木学会全国大会第75回年次学術講演会「優秀論文賞」



対象：現地学習を基幹とした「まちづくりワークショップ」の実践
受賞年月日：2020年11月1日

■ 博士後期課程2年 渡辺万紀子
(指導教員 天野 光一・西山 孝樹)

土木学会全国大会第75回年次学術講演会「優秀論文賞」



対象：街路に形成された中間領域が始まる位置と影響を及ぼす構成要素の推定
受賞年月日：2020年11月1日

■ 博士前期課程2年 松岡七海
(指導教員 岡田智秀)

土木学会景観・デザイン研究発表会「優秀講演賞（35歳以下部門）」

対象：都市型人工海浜における整備要件および利用特性に関する研究―都内初の区立人工海浜大森ふるさとの浜辺公園を対象として―

受賞年月日：2020年12月6日

■ 3年 渡邊敦紀・濱田健太郎・高宗 明日香・特任教授 小木曽裕

2020年度日本造園学会関東支部大会研究発表賞表彰（ポスター発表部門）「奨励賞」

対象：軽井沢宿泊施設の時代による変化とコロナ禍での意識調査による研究

受賞年月日：2020年12月20日

〔雑誌等に掲載〕

■ 助教 落合正行

作品：「富士山・白糸ノ滝テラス SHIRAITO GENERAL STORE」

掲載誌：『新建築』2020年10月号（新建築社）
発行年月日：2020年10月1日

■ 准教授 押田佳子（高橋靖一郎と連名）

記事名：明治神宮1920+100（第3回）日本の都市ランドスケープの幕開け

掲載誌：『ランドスケープデザイン』No.135（マルモ出版）
発行年月日：2020年10月23日

■ 教授 阿部貴弘

記事名：巻頭言「インフラツーリズムのこれから」

掲載誌：月刊『建設』Vol.64, No.11（全日本建設技術協会）
発行年月日：2020年11月1日

〔書籍〕

■ 教授 後藤 浩

書籍名：日本大学水理学研究会編『水理学―例題・演習―』（理工図書）※分担執筆

発行年月日：2020年4月10日

■ 教授 八藤後 猛

書籍名：『バリアフリー体験ワークブック』（彰国社）※単著

発行年月日：2020年8月20日

■ 准教授 押田佳子

書籍名：明治神宮とランドスケープ研究会著『『林縁計画書』から読み解く明治神宮一〇〇年の森』（東京都公園協会）※分担執筆

発行年月日：2020年12月18日

■ 教授 阿部貴弘

記事「第Ⅱ部4章10節 営みの変化と生きた景観」

書籍名：日本建築学会編『生きた景観マネジメント』（鹿島出版会）

発行年月日：2021年2月8日

〔講演等〕

■ 教授 阿部貴弘

「水都 江戸・東京の変遷」

主催：ちよだ生涯学習カレッジ

開催年月日：2020年12月22日（千代田区立九段生涯学習館）／2021年1月12日（オンライン開催）



富士山・白糸ノ滝テラス

「大河津分水と岡部三郎、青山士、宮本武之輔」

主催：まちなかキャンパス長岡

開催年月日：2021年1月25日（オンライン開催）

■ 教授 岡田智秀

関東地方都市美協議会オンライン講演「こしがやの景観行政と景観特性について」

主催：越谷市役所主催

開催年月日：2020年11月4日

荒川景観まちづくり塾「2020年度課題解説と講評」

主催：荒川区役所（オンラインシンポジウム 1日目・オンライン講演）

開催年月日：2020年11月14日

「御前崎のトンガリをいかした社会実験の留意点」

主催：御前崎市主催（観光まちづくりワークショップ講師）

開催年月日：2020年11月30日

荒川景観まちづくり塾「2020年度成果の総括と今後の展望（録画収録）」

主催：荒川区役所主催（オンラインシンポジウム 2日目）

開催年月日：2020年12月12日

■ 教授 田中 賢

「コロナ禍における高等教育での合理的配慮」

主催：日本福祉のまちづくり学会 国家資格等に関連する合理的配慮特別研究委員会

開催年月日：2020年12月21日

■ 准教授 押田佳子

第5回技術研修会「大樹の継承と観光まちづくりー鎌倉及び都内を中心にー」

主催：一般社団法人日本樹木医会神奈川県支部

開催年月日：2021年2月7日

編集後記

私はNHKの番組「奇跡のレッスン」をつい見てしまいます。ミシュラン三つ星にも輝く京都の料亭「菊乃井」のご主人、村田吉弘さんが福井の高校へ。ある男の子が「器用に物事をこなすコツはありますか？」と村田さんへ問うたところ、「器用にならなくてもええで別に。生きていくのに器用やっていうのは必ずどっかで落とし穴にハマるとるわ。愚直であるべしやで。コツコツとできることがコツコツとできればええんちゃう」本当にええこと言うなあと思いました。卒業・修了者の皆さんは卒業研究で物事を積み重ねていく大切さを学んだことと思います。そして、社会に出てからも、コツコツやることを大切にしてください。

（西山孝樹）